自由討論

河井　以上、提言構想の説明が行われた。文書としてはいろいろ疑問もあろうと思う、しっかり討論願いたい。

南部　定義なんだが、「東アジア」という地域でどこまでをいうのか。地理的な範囲は。

平岡　この前、地理的範囲としては、「北東アジア」で日中韓というのがあり、これに東南アジアを加えるアセアン+3、さらにアセアン+6 つまり、アセアンに日中韓とインド、オーストラリア、ニュージーランドを加えた構想がある。環太平洋というとき、「APEC」、「TPP」というような範囲も考えられる。常識的に考えるのは東南アジアと北東アジア、すなわちアセアンプラス３ぐらいかな。ただ、安全保障となるとアメリカを除外してやるのはなかなかむずかしい。地域的集団安全保障体制としてつくるときはアメリカ、ロシアも入れていくということが考えられる。そうそう、北朝鮮がぬけていた。当然北朝鮮を除外する理屈はない。将来的にも。

アセアン＝インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス（全 10 か国）

河井　基本は日中韓北朝鮮とし、それをどこまで広げるかという問題か。

平岡　どこまでひろげるかというということだが、ＥＵは、ドイツ、フランス、イギリス、イタリアいう大国がはいる。ただ大国同士がやるとなかなかうまくいかない。ルクセンブルク３国がはいって、緩衝剤的な役割をはたしたという歴史的経験がある。だとすると日中韓、北朝鮮という、対立の歴史が長いところだけでやるより、東南アジアのような緩衝剤的な国が入るほうがまとまりやすいという面もある。

EU（欧州連合）＝ベルギー、ブルガリア、チェコ、デンマーク、ドイツ、エストニア、アイルランド、ギリシャ、スペイン、フランス、クロアチア、イタリア、キプロス、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、ハンガリー、マルタ、オランダ、オーストリア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロベニア、スロバキア、フィンランド、スウェーデン、英国（28 カ国）

「平和創造基本法案」の３ページの第二の３の（２）「北東アジア地域におけるアジアの安全保障の構築」と書いてあるところに「政府は北東アジアにおける安全保障体制の構築を図るため、同地域の諸国（日中韓（北））」または当該諸国を含む東アジア地域の諸国及びアメリカ合衆国との連携のもとに、国際連合憲章第 52 条に規定する地域的取り決めの締結または地域的機関の設立のための取組の推進その他の必要な措置を講ずるものとすること」とある。その他、集団安全保障体制、北東アジアとアメリカでできればいいのだが、なかなか難しいだろうから、東南アジアを含む諸国とアメリカの間でやるというのでもいいという表現になっている。

南部　提言とした場合、われわれはこういう地域と一緒にやると注釈にいれておくといい。概念をしぼったほうがいいか。

河井　段階的という言葉があったが、段階を追ってひろげ、国の数をふやしていくという考え方もあるか。

平岡　それはある。まず日本とアセアンでやっちゃう。そこに韓国、中国がはいる。日韓とアセアン、それに中国と北朝鮮がは

いるという例もあげた。目標としての地理的配分は、北朝鮮を含む北東アジアと東南アジアをいれたようなイメージか。モンゴルがはいりたいということもある。モンゴルは非核地帯宣言をしてる国として国連に認められている。北東アジア非核地帯構想が提案されているときに、モンゴルもいれてくれと言っている。

井原　気になっているのだが、提言１の「東アジア地域」、とりわけ「北東アジア地域」となっていて、そこが意識されているのだと思う。私はむずかしいけれど、北東アジア中心にやるべきだと思う。東南アジアはかなり違う。地理的にもはなれている。アセアンと日本だけがやって、中国韓国がはいるというのは・・・。日中韓が経済的にも発展している。　　軍事的な問題だけではない。軍事的だけでなく、政治、経済を含むすべての共同体的なことをめざしているという考えかただろう。日中朝鮮半島というのが一番いいかと思う。体制が違うから難しいけれど。東アジアと書いておいて、北東アジア中心に考えるという構成でもいい。

河井　『世界』に平岡さんが書いた論文では、日米安保にはすぐ手をつけないで、まずアジアとの関係を強化して、日米安保が宙に浮いていくような独自の世界をつくるというやりかたが可能、という提言だったと思う。そういう考え方が今もあるとすれば、アメリカを加えるとやりにくくなる。

近藤昭一、平岡秀夫：「民主党が目指すべき安全保障：私たちはこう考える」『世界』751 号. 2006.4. p.91.

平岡　共同体というときにアメリカがはいると難しい。安全保障のなかでアメリカを除外するというのも難しい。『世界』で書いたときは、「軍拡競争的な軍事的緊張をやわらげていくという方向で努力することによって、在日米軍基地も縮小していくということができるのじゃないか。最後には、日本には米軍基地がない、あるいは、日米安全保障条約が解消する、そういう方向で歩むべきだ」ということだった。今日の提言にもそれはある。

河井　そのことをどこかに言葉として書くのは難しいだろうか。

平岡　私が発言したなかで、日米安保条約は集団的自衛権の範疇にはいる。東アジア共同体は集団安全保障の世界の話だ。両方はなりたたないということではないが、集団安全保障が確立すれば、安保条約はいらなくなるという方向へいく可能性はある。日本の周辺で、北朝鮮も中国も集団安全保障体制のなかで、戦争の可能性がなくなれば、日米安保条約は何のためにあるのかという話になって、不要になる。その場合でも、日本とアメリカ、あるいはアメリカとアジア共同体の間でなんらかの条約関係をつくることはあるかもしれない。「こういうことを進めると、結果的には日米安保条約はいらなくなる、日本にとってみれば周辺の脅威がなくなるのだから、いらなくなるのではないか」ということで書くことができるかもしれない。

河井　それがあるとわかりやすいことは確かだ。そういう関係で、どこまでの国が対象になるかということが変わってくるかもしれない。何を中心に考えるか。たとえば経済中心だと趣がかわってくるだろう。

平岡　そこはあまり提言しても仕方ないか、と思う。大きな目標を定めたら、あとはできるところから手をつけていく。経済から、あるいは歴史認識から、などと書くことは考えていない。ただ急がれるのは軍事的リスクへの対応、本格的な戦争は別かもしれないが、突発的に起こる局地的な武力衝突が起こらないように、また起こったとき拡

大しないような仕組みをつくっておけば、もっと冷静にお互いの国の関係のことは考えられる。これは、民主党政権も、現在の安倍政権も言っている。だからできないことではない。本当は日本、中国、朝鮮半島だけど、東南アジアを巻き込んでいく。実際的な、戦術的な話として、東南アジアを加えるという考え方があり得る。

河井　ＥＵの教訓だろうか。

井原　東南アジアはベネルックス３国とはちょっと違う。

平岡　井原さんはタイにおられたから、わかることもあろう。

井原　そういう関係を深めるのなら、今の関係で協力関係を深めていけばいい。共同体をめざしても、かなり違う。

河井　東アジア共同体には、通貨統一も含むか。

平岡　除外しない。通貨統一は難しい問題がある。ＥＵでもユーロで統一しているが、難しい経済問題が起こった。日本の都市と地方の格差を調整するとき、同じ「円」だから、為替レートによる調整はない。だが、地方交付税という形で、都市から集めたものを地方にもっていくという形で格差をおこさないようにしている。ＥＵには地方交付税がなく、為替レートによる調整もないから、ギリシャ危機、スペイン危機がおこり、経済力あるドイツが債務保証することによって危機をのりきった。しかし抜本的に格差問題をどうするかの政策はまだできてない。

河井　何を共同体化するのか、必ずしも明快ではない。文化か、経済か、政治か、軍事か。それらすべてか。

平岡　ＥＵの歴史をみれば、最初に経済があり、共通市場、共通通貨となった。しかし北東アジアの状態をみると、何からいけばいいかは明確にはいえない。大きな目標をかかげて、その目標に反しないところで、一歩一歩歩みをすすめるしかない。ただ、突発的軍事衝突がおこらないようにする、起こったときはそれが拡大しないようにする仕組みと、若者交流をもっと大きな規模で行うことは、直ぐに始めねばならない。いま、ネット交流もあるが、韓国、中国とかを知らないから、恐怖感をおぼえる。もっと知ってくれば、そんなに敵視することにはならない。それをすぐにでも始めたい。ただ、残念ながら、大規模な若者交流を今始めても、私たちが生きている間はまだ共同体的なところまでは行かないのではないか。

河井　あれだけひどかった独仏関係が一気に共同体という方向に進んだのはなぜか、私はわからない。経済が大きかったのか、政治か、軍事か。

平岡　第一次大戦、第二次大戦で大きな被害がでたというなかで、二度とこういうことをおこしてはいけないというのがまずあって、ひとつには経済関係から石炭鉄鋼共同体をつくってドイツ、フランス等の間で、経済関係を強化する。もうひとつには 1963 年に「エリゼ条約」というのがあって、歴史問題はドイツ、フランスが確認した。

河井　それでは戦争、軍事的な関係を乗り越えなければいけないということが一番大きかったのか。

平岡　軍事的衝突をくりかえしたら大変なことになるということではないか。それで経済から手をつけた。

河井　同じ道をアジアでも行けるかもしれないとなると、中国、日本、韓国、北朝鮮の関係に正面から向き合わねばならないことになる。同じ形で考えるとすると。

平岡　東アジアの場合は、どこから手をつけるかということがなかなか多様だ。新藤栄一さんが『東アジア共同体の構築』とい

う本を書いた。その本の中で、EU の場合は、共通の脅威としてはソ連共産主義があり、共通の利益としては戦後復興があったと言っている。この本は、2007 年、筑摩書房発行。大事なことは目標を大きく掲げること。脱原発も簡単にできることではないが、「脱原発をするのだ」という大きな目標を掲げることによって、代替エネルギーをどうしていくのか、脱原発をどうすすめるかが考えられるのであって、そういう大きな目標がないと、もう一つ下の段階の目標もなかなか作れない。

新藤栄一、山川均 :『東アジア共同体を設計する.』 東京：日本経済評論社, 2006. 334p.

河井　井原さんは、共同体ということをいきなり考えても難しいのではないかというニュアンスの発言があった。

井原　そんなことはない。共同体という大きな目標をもって、なかなか難しいことだが、その目標に向かってやっていくという考えかたには大賛成だ。できるところから青少年の交流もおこなうというのにも大賛成だ。方向性としては賛成だ。難しいけれど。ＥＵだって永年かけてやっとあそこまできた。イギリスも通貨統合にははいってないし。まだまだ過程である。軍事的にもＮＡＴＯがあり、アメリカもはいってやっている。何百年たたかってきたフランス、ドイツが戦争しなくなったというのは、人類のものすごい英知で、ノーベル賞で、人類の歴史に刻みこまれるすばらしい成果だ。世界中いろんな地域でこんなものができてくることが平和につながる。昔は日本も戦国時代には６０の国にわかれていた。それがひとつになって、日本のなかでは戦争しなくなった。今は民族国家の時代だけれど、それが広がって地域の時代になれば、地域の中では戦争しなくなる。人類の進むべき方向で、EU の歴史を参考にしていくことは大賛成だ。まず東アジア全体をやるのかというところなどは、少し整理して書くといい。北東アジアを重視しながら東アジアを考えていく。もちろん段階的だ。ＥＵみたいにどんどん拡張するのはあまり賛成できない。どんどん拡大しているからいろんな問題がでてくる。あまりひろげすぎてもいけない。当面緊急措置として、青少年交流をあげていて、それはいいが、具体的にどういうふうに共同体を形成するかについては、まだ踏み込んでいない。いろんなやりかたがあると書いてある。難しい問題もあるから、われわれの提言としてはこれでいいかもしれない。安倍のもとで、全然話し合いのできてない、戦争や歴史にたいする東アジアの共通認識をもって、克服して、和解して、将来にむかって共同体に向かって努力する、そういう基盤を作ることがもとめられる。共通認識を持つことがもとめられる、とここに書いてもいいかと思う。最後の「交流」もいいことと思う。国ベースのことだろうが、自治体、民間レベルの交流もどんどんすすめていけばいいということを１行ぐらい書き込んでもいい。

河井　企業、経済の領域ではかなり交流が行われている。

井原　もちろん経済交流はどんどん進んでいる。教育、文化なども。若者が何百万人も交流したら、10 年、20 年すれば意識がかわってくる。

白木　提言２のところは方法論だ。青少年交流をすすめると言うが、焦点ぼけしている。何と書いたらいいのか。文化の交流は、宗教もはいる、仏教、儒教と違うから。提言１は「目標」、提言２は「手段」だ。提言３は「軍事」、提言４は「青少年」。老人ではだめだ。提言２に何かいい言葉はないか。

井原　提言２は、統合とか、共同体形成の

方法とか、手段みたいなことを書いて、東アジアはこういう状況だからこのようにやっていく、それにＥＵの歴史を参考にする、と書く。

平岡　提言がわかりにくいということだろう。東アジア共同体を形成する方法としてこういうことを参考にしようということならそれでいい。

南部　解説的な提言になっている。明らかに提言として書いた方がいい。提言１の「『目標』があればこそ、我々が歩みを進めるべき方向を間違わずにすむし、逆方向に進むことによるロスを生じさせなくて済む」というような、解説的なことは書かないほうが、目標がはっきりわかりやすい。

平岡　そこを意識してわざわざ書いたのは、「東アジア共同体という現実味のないことを言ってどうするの」と言う人が多い。だから「方向を間違わないように」ということをどうしても言いたかった。

南部　難しい課題をかっこ書きで、こんなものがあるということを書いて、それを克服するためにはこういう方法があるのだという提言のほうが。課題を明確にしたほうが。EU に学んでということでなく、われわれはこうしたい、それには EU を学んで、というほうがいい。３はあまり問題ない。提言となると「こうだよ」ということをはっきり言って、それに沿った提言を書くほうがいい。

河井　津田さんの提言井にも同じことがあった。あるところで「えい、こうなんだ、これをやらなければいけないんだ」という書き方のほうがいいかもしれない。できる、できないはわからないが、これをやらねばいけないだろう、と言う書き方のほうがわかりやすいということはある。

井原　３，４は具体的で明快だが、２にもそれがほしいかもしれぬ。

白木　宗教の違いもある、

平岡　イスラム教はイスラム教で、存在し、多くの人が信仰しているので、それを排除するわけにはいかない。イスラム教の側もほかの宗教との違いを受け入れられるものは受け入れる姿勢が必要だろう。

白木　宗教については、どこがかみあわないのかを知らない。

井原　アセアンも混在している。そのなかでアセアンを作ってやっている。

河井　ドイツにもいろんな宗教が混在している。ここでは国境問題にふれてないが、中国、韓国とは（尖閣諸島、竹島という）国境問題が表にでている。

平岡　国境問題はある。そこを具体的に提言する必要があるのだろうか。

河井　共同体という１ランク上のレベルで考えることにより、ヨーロッパのように、国境問題がそれほど深刻な問題にならなくなることをめざしているのか。

平岡　国境問題を掲げながらでもやれないことはない。歴史認識の違いのなかに国境問題があるかもしれない。

白木　とくに日本人が強いのじゃないか。線をひくということに。

河井　どっちもどっちだろう。現実問題としては漁業権問題がある。

白木　資源問題もある。

河井　アジアの地域の最大の問題は国境問題になっている。それをなくさなければ共同体はできないのか、それとも東アジア共同体という１ランク上の目標を目指すことによって、国境問題がマイナーな問題になっていくことをめざしているのではないか。

南部　尖閣問題にしても、お互いにほどほどにしたらいいとおもう。

河井　日本で安保問題を議論すると、尖閣諸島問題があり、中国が問題、だから日米同盟が大事、という議論がすぐ出てくる。

南部　ここで掲げようとする提言からすると、少し次元が下だ。そういう現実問題をいわないで、もうちょっと高度な提言にしたい。

津田　(交渉にはいると)その問題にはふれるようになろう。どちらが重要なのかということを示すべきだろう。ヨーロッパがそうだった。

井原　解決の方向に向かう。共同体ができ、信頼関係ができて、協力関係ができていく。今は何もない。

藤村　言葉がむずかしくて。今おきていること、たとえば日本と中・韓とのいさかいについて、こちらが間違っていることを改めていくことが必要だ。安倍政権がやっていることは、東南アジアの中国と仲が悪いところへいって、そこを助けるようなことばかりやっている。韓国とでも、自分が強制連行したとウソを言ったという一部の人のことを宣伝して、強制連行はなかったということにする。しかし強制連行したことはたしかだ。安倍さんがアメリカへ行って従軍慰安婦の強制連行はなかったといったばかりに、日本は謝れという決議がなされた。これから韓国や中国となかよくするためには、間違ったことをやったことにたいして謝らねばいけない。韓国に建てられた少女像にしても、撤去しろではなく、そこへ行って、これから二度としない、と膝まづいてあやまらねばいけない。そうしたら仲の悪いことも一遍に解決する。ところがいろいろウソを言うから、向こうが腹をたてる。安保条約は軍事同盟だ。友好条約ならいいのだが。国際社会に通用するようなことをしなければいけない。

南部　大切な意見だが、その問題を提言みたいにすると、そちらのほうに焦点があわせられることになる。やっぱり全体をとおした提言にしたいと思う。朝日記事などを前面にだすと争いごとになる。どうすればうまくいくかということを提言すればいい。

平岡　テーマ選定の問題だ。「東アジア共同体を考える」というこのテーマはみなさんが決めて、私がその提言をすることになった。歴史的な問題を頭にいれなければいけないが、それぞれは別の提言になる。

河井　東アジア共同体という考え方自体が大きな提言だ。これについて異論はないか。その個別の提言が４項目あげられているが、東アジア共同体というテーマで提言することはいいか。

藤村　東アジアというのはどこまでか。

井原　大きくいえばアセアンと北東アジア。小さくいえば北東アジアという概念。

平岡　われわれが一致しなければいけないのは北東アジア。日本、中国、朝鮮半島。しかしそれをやっていくためには、周辺諸国の緩衝地帯も必要ではないか。となると東南アジアを含める、というのが今の最大公約数的な認識かと思う、

河井　その点には異論ないだろう。

井原　私は北東アジア中心で、アセアンはつけたしみたいなものだと考える。緩衝地帯的な役割をはたすのは無理だと思う。中国、朝鮮半島をはずして、まわりだけやってもだめだ。あとは方法論だ。従軍慰安婦など具体的な問題も大切な問題だから、別途議論すればいい。

河井　これまでの問題を不問に付して、みんなが仲良くやろうとしても、うまくいかないかもしれない。

井原　不問に付すのではなく、検証して共通認識をもって、悪いことをしたのならそれをみとめて、和解しなければいけない。エリゼ条約が 1963 年だ。ここで大きな和解がなされた。その後、半世紀、われわれは何もしていない。歴史的検証をしっかりして、共通の歴史認識をもってあたらしい

関係をきずかなければいけない。そのことをちょっと書いたらどうかなと思う。

河井　提言の趣旨は具体的にあるが、その前に、東アジア共同体をつくりたいから、そのために何とかしようと考えることが必要である。みんなが一致できる目標をまず掲げた上で、これまでの歴史にたいしてしっかり反省するという考え方か、それとも、これまでの問題をちゃんとしないと共同体の実現自体が不可能になるということか。

井原　そういうことからはじめないと、アジア共同体にもむかっていかないだろうということもある。

津田　戦争責任にふれないで話をすすめることはできない。日中国交回復などもそうだった。

南部　自民党が苦労して作ったコンセンサスを無視して安倍がやっているからおかしくなった。あのままおさえておけばよかった。

稲生　全体として、提言としてもっと言葉をつめていく必要がある。内容として、東アジア共同体を目標として項目をあげるといい。ここにあがっている４項目は出発点。ここからはいっていかねばいけない。具体的に提言するといい。

河井　経済とか軍事とか。

稲生　「我が国にとって」という書き方でなく、「東アジア共同体を実現するために」という書き方のほうがいい。この４項目が当面としては必要だと思う。

平岡　提言の背景をどこかで触れなければいけないが、これぐらいの紙にまとめるとしたら、これぐらいの説明がないと、みんなが「そうだね」と思ってくれないだろう。

白木　主語が「我が国にとっては」でなく「われわれ東アジアに住む人間にとっては」でないといけない。

井原　前文に趣旨とかを書いて、提言では具体的なことを簡潔に書くということか。形をととのえたら、ということか。

河井　焦点がずれるかもしれないが、日本には、アジアと提携するより、アメリカと提携する、アメリカにぶらさがっているのでいい、という考え方があるようだ。東アジア共同体を提言しても、まてよ、東アジア共同体でなくて、アメリカにくっついておればいい、という考えかたが一般にありはしないか。

南部　アメリカにぶらさがっていれば、日本の安全は守られるというのは、架空の議論だ。それより、東アジア共同体をつくろうじゃないか、ということでやればいい。

平岡　河井さんの言うこともわからんじゃない。でも、アメリカと仲良くすればいいということは判らないではないが、それではアジアとはどうつきあうのか、という問題は残る。この文書には「アメリカと仲良くよくするのはやめよう」ということはどこにも書いてない。

河井　企業につとめて、定年でかえって来た人たちにはアメリカ一辺倒の人が多い。そういうことを思うと・・・。

平岡　経済的には、今や日米より日中のほうが圧倒的に大きい。10 年前ならそうかもしれないが、今でもそうだというのは時代おくれだ。

河井　一時、民主党にはアメリカ一辺倒のグループがあった。

白木　今でもある。

井原　この中で提言するのであって、他の人がどう考えるかを考える必要はない。

河井　これを誰に読ませるか。できるだけ賛同者が多くなるようなとらえ方が必要。

井原　できるだけ賛同者が多くなるような提言をするのか。

河井　そうだ。美しいことを言って、我ひとり清しでいても、言ってることが他の人

にはピントこない、ということがある。それでもいいというわけのものではない。

平岡　他の人にもなるほどと思ってもらえるようなものを作らねばいけない。

南部　なるほどと思うものを作らねばならないことはたしかだ。しかし日米関係とは関係ない。東アジア共同体をつくるということをいうことによって、暗に日米関係のことをいうことにもなる。

井原　そういう人の考えを考慮して、アメリカの関係も大切にして、という書き方になるのか。

河井　どういう書き方がいいかは分らない。

井原　どう書いたらいいかということの意見がないと議論のしようがない。

河井　アメリカでなく、まずアジアが大切だ、ということを理解させるためにどう書いたらいいかということだろうか。

南部　それには触れないほうが賢い。安保、地位協定をかえて、その点に将来を、というように考えないといけない。

津田　地域的衝突防止という言葉は入っている。そういう意味で近隣との協調関係をつくらねばならない、という説明になっていると思う。

河井　なるほど。それだと二度と戦争してはいけないというところから出発した EU の経過に通ずるものがあるのか。

宮本紀子　毎日世界各地の紛争や、日本の戦争ができるようにするための準備が着々と進んでいるニュースを見聞きして、暗澹とした気持ちだ。前回の東アジア共同体の話を聞いて、この話の続きが聞きたくて、続いて今日も参加した。武力をもって戦争することを否とするなら、それに代わる策として互いに手を結んで、ルールを決めながらやっていくことはできないか。東アジアというのは地域的に「大東亜共栄圏」とか「八紘一宇」とかを思い出させるが、武力衝突を避けるということを大前提としての、東アジア共同体というのはとてもいい提案だと思う。細かいところは飛ばして、こっちへ向かってみんなで行こうよと方向を示すことが大事だと思う。

宮本　光　非会員だが、東アジア共同体に関心があったので、オブザーバーとして出席させて頂いた。５年前民主党が政権を取った時に鳩山首相が「東アジア共同体を創ろう」と言った。また小沢一郎民主党代表も「在日米軍を削減した日本周辺の安全保障の確立」を主張した。ところがその後政治資金問題で東京地検特捜の手により政治的に抹殺されることになる。東京地検特捜部はアメリカの意志に大きく影響を受ける組織らしいので、「東アジア地域独自の安全保障の確立はアメリカの意志に反するもの」なんだと強く感じた。その後「東アジア共同体」という言葉は影を潜め、同時にこの地域での政治的、軍事的緊張が高くなってきたと思う。

私は昭和 27 年生まれ、いままで戦争がなくて平和でおれたなかで生きてこれたので、戦争が一番困る。私は兵隊にとられる年齢でなくなったが、子供や孫などが戦争にいく、若い人が少なくなる、そういう事態はあってはならないことだ。そういうことが一番気になる。この近辺で戦争をしてはいけない。それにはどうしたらいいのか。

稲生　このなかでアメリカの問題に触れる必要はない。日本はアメリカには信用されていない。何かあればアメリカは中国に目をむける。日本を尊重して何かするということはない。この提言は、日本がイニシャティヴをとる日本独自の政策を掲げる提言でありたいと思う。アメリカのことに触れる必要はまったくない。

河井　宮本光さんが言ったことは、津田さんが、提言３の「戦争をやってはいけない」

ということが基本になる、それを軸にして他のことを考えていくべきだ、と言った考え方に通ずるのではないか。

宮本光　私はそうではないかと思う。この地域で戦争を起こさないことが大事だなと思う。

津田　異論はない。交渉をすすめる段階で、歴史認識、謝罪、すべてが含まれてくるだろう。アメリカもそれをもとめている。日中、日韓の関係を。そのことを考える必要はない。方法論としてはいい考え方だと思う。実現は非常にむずかしいとは思うが、考えかたとしてはこの概念でもって対応するということだろう。

河井　それは藤村さんの考えにも通ずる。

藤村　とにかく戦争の反省がない。今の日本は。歴史認識がまちがっている。加害をいわないで、被害ばかり大きくいう。ヘイトスピーチでも「国連人種差別撤廃委員会」から言われるまで、日本はヘイトスピーチにたいする対策を講じない。

平岡　ヘイトスピーチ問題もあるが、「ヘイトスピーチはおかしいのではないか」と思わせるような、もっと上位の思考というか、理念というか、そういうものを訴えていかねはいけない。それが「協調と共存」だ。そのなかで、「ヘイトスピーチをやってどうするのか」ということを反省させる。東アジア共同体の考え方は、「やっぱり仲良くしてやっていかねば」という方向へむけていく。人間が作らない脅威もたくさんある。それに立ち向かっていかねばならない。ヘイトスピーチでは、若い女の子がとんでもないことをしゃべっている。「自分がやっていることはおかしい」ということをわかってもらわねばならない。

藤村　ドイツなどでは、法律で禁止しているが、日本は禁止していない。それにたいして、こうやれ、と言いたい。

平岡　そういう提言も、あることはあるんだが・・・。

河井　ひとつひとつ問題をつぶしてなくしていくのか、総合的に東アジア共同体に向けていけば、個別の問題が解消されると考えるか。

井原　どっちをとるかではなく、今回は「東アジア共同体」という大きな構想で議論する。それでそんなに異論はないのではないか。

河井　どういう具体的なことをしていくか、ということがあった。

平岡　稲生さんがいうのは具体的な中身ではなく、提言の方法をいっているのだろう。

稲生　前文をあげて、ということだ。

平岡　もう一度書き直して、こんどは書類審査でお願いしたい。

井原　おまかせしていいのではないか。

平岡　東アジア共同体の中身はどのようなものかということをいいはじめたら、無数にある。それを具体的に取り上げる材料は、私にはまだない。言えるのは、軍事的リスクをどう管理するかということと、青少年交流を具体的に考えていくこと。あとは「共同体をめざしていくのだ」というなかで、具体的に考えていけばいい。

津田　書き方はおまかせしてもいい。僕も提言のところをもうすこしくわしく説明しなければいけないのかと、今考えているところ。あったほうがわかりやすいということはある。

南部　大体できあがった。

白木　インターネットを活用して、東アジアの諸国が情報を共有することが必要だ。これは提言になるのか、ならないのか。北朝鮮ではまだ情報の流通が自由でない。自由な情報交換をすすめ、他の国のことを知ると、仲良くなるのではないかという気がする。

平岡　「東アジア共同体形成という目標を持とう」ということだ。その目標に向かって、地道に進み、逆の方向には進まないようにするということが大事だ。

白木　われわれが東アジア共同体と考えるのは、黄色人種だからか。ＤＮＡの問題か。

河井　地理的な近さだろう。

平岡　人種はあまり関係ないと思う。我々にはＥＵというモデルがあるから、それを目標にすることができる。EU は、石炭など経済的な関係に最初取り組んだ。その時、現在の EU のような目標をもっていたのか、それともとりあえずこうしておけば戦争にはならない、石炭を共同利用すればいいというところから出発したのかもしれない。他方で、ソ連共産主義に対抗するためのという考え方もあった。欧州連合の価値観を普及させるという目標もあった。かなり壮大な目標から出発したのではないかと思う。

井原　隣の国と戦争は絶対やらないという強い決意だと思う。ドイツとフランスは絶対戦争しないという決意だろう。もう戦争はおこらないのではないか、という気がする。だとするとすごいことだ。50 年ぐらいでくずれてしあってはどうしようもないが。経済も通貨も統合された。

平岡　今や、ドイツやフランスには戦争をしなければいけないような貧困はないだろう。いまの豊かさを失う戦争へはもう走らないような気がする。

井原　国境がだんだん薄まっている。ＥＵの最初の構想をうちあげたとき、遠い将来のこともあったろうが、とても実現するとは考えなかっただろうし、当時の人たちはもういなくなった。それほど長期的な構想だ。通貨まで統合されることなど考えられなかった。

藤村　ドイツなんかは民意を考えてそのとおりにやるからいい。日本はどんなに反対が多くても、原発はつづける。民主主義はなにもない。

稲生　普天間は、住民が承認しなくても坦々と進めると言っている。

南部　最近は言論統制にむかっているように思う。たくみにやると選挙なんかひっくりかえってしまう。

河井　意見がだいぶ出た。平岡さんにまとめていただき、みなさんの意見をもとめ、こちらでまとめるか、平岡さんに仕上げてもらうか。私たちの意見も加えて、メールや手紙で仕上げることにしたい。

自由討論発言者（逆 50 音順）

宮本紀子	周防大島町長崎	津田利明	岩国市桂町
宮本　光	周防大島町長崎	白木茂美	岩国市平田
藤村英子	周防大島町下田	河井弘志	周防大島町日前
平岡秀夫	岩国市楠町	井原勝介	岩国市今津
南部博彦	岩国市平田	稲生　慧	岩国市岩国